



## 地域企業の生産性と付加価値の向上

鹿児島県商工労働水産部  
部長 北村 貴志

このたび、6月25日付けで商工労働水産部長に就任しました北村です。

県内企業及び関係団体の皆様には、かねてから本県の産業振興に多大な御尽力、御支援をいただき深く感謝申し上げます。

さて、現在、我が国は、本格的な人口減少や少子高齢化の進行、不安定な海外情勢による物価の高騰、グローバル化やデジタル化の進展、世界的な要請でもあるカーボンニュートラルの実現など、大きな変革期の中にあり、これらへの様々な対応が求められております。

県としましては、こうした状況に的確に対応しつつ、生産性と付加価値の向上による産業競争力の強化、将来を担う新たな産業の創出などに取り組み、企業の「稼ぐ力」の向上を図ってまいります。

企業の生産性向上に向けては、中小企業におけるDX化、製造業・サービス業におけるAI、IoT等の導入による自動化・省力化の取組について、規模を大幅に拡充し、集中的な支援を実施します。

スタートアップの創出・育成に向けては、若い世代の起業家マインドの養成やビジネスプランコンテストの実施、実証事業、研究開発や設備投資等への支援など、各段階に応じた集中的かつ継続的な伴走支援を行ってまいります。

また、脱炭素社会を実現するため、再エネの地産地消の取組推進はもとより、肉用牛・酪農への飼料用アミノ酸の活用による畜産GXや、工業技術センターの開発技術を用いた低炭素型シラスコンクリートの普及によるインフラ・建設GXなど、先行的な事例の創出などにも取り組んでいるところです。

このような中、工業技術センターは本県産業の技術ニーズを踏まえた研究開発に取り組むとともに、

技術指導・相談、依頼試験・分析、設備機器使用等の技術支援を行うなど、県内企業の「技術の拠りどころ」として中核的な役割を果たしております。

研究開発においては、新たな技術を開発するための技術創出研究として、シラス(火山活動による堆積物)やセルロースナノファイバーなどの3テーマ、企業からのニーズに対応するための技術高度化研究として、電子関連産業、宇宙関連産業などを対象とした3テーマの研究開発を進めております。

また、地域資源の高度利用、生産・加工システム、バイオ・食品、環境・生活・デザインの4分野において、12テーマの実用化に向けた研究を実施し、経済産業省の公募提案型受託研究などにも取り組んでおります。

技術支援においては、技術相談・指導8,000件以上、依頼試験・分析3,000件以上を行い、設備使用においては、新たに繊維引張試験機、ビッカース硬さ試験機、NC旋盤、全自動圧縮試験機等の4機種を導入し、利用を開始したところです。あわせて、企業の技術者等で構成する各種研究会を運営するなど、技術指導を実施しております。

皆様におかれましては、新事業の創出や新製品の開発に向けて、工業技術センターを積極的に活用していただき、本県地域経済の成長につなげていただきたいと考えております。

終わりに、皆様の益々の御発展と御健勝・御活躍を心よりお祈りいたします。